

◆学校だより◆

Obihiro Hanazono Elementary School

はなぞの



帯広市立花園小学校

ホームページ

QRコード



令和4年12月1日

発行者 菅原 優博

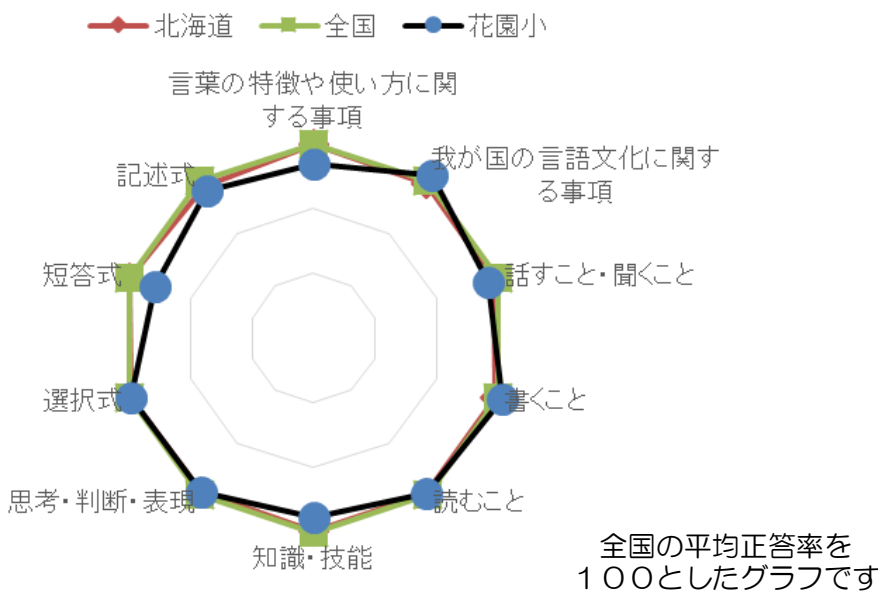
令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて①

4月19日に6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の〈結果〉と〈考察〉をお知らせします。この調査結果は、本校児童の学力の一部を表していると同時に、これまで行ってきた学習活動の成果や課題を表しています。子供たちの学力向上には、日々の授業改善と、望ましい生活習慣の定着が大切です。今後も保護者の皆様のご支援をいただきながら、学力向上に向けた取組を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、本通信は、花園小学校のホームページにもカラー版で掲載いたします。

国語

国語の結果



〈結果〉

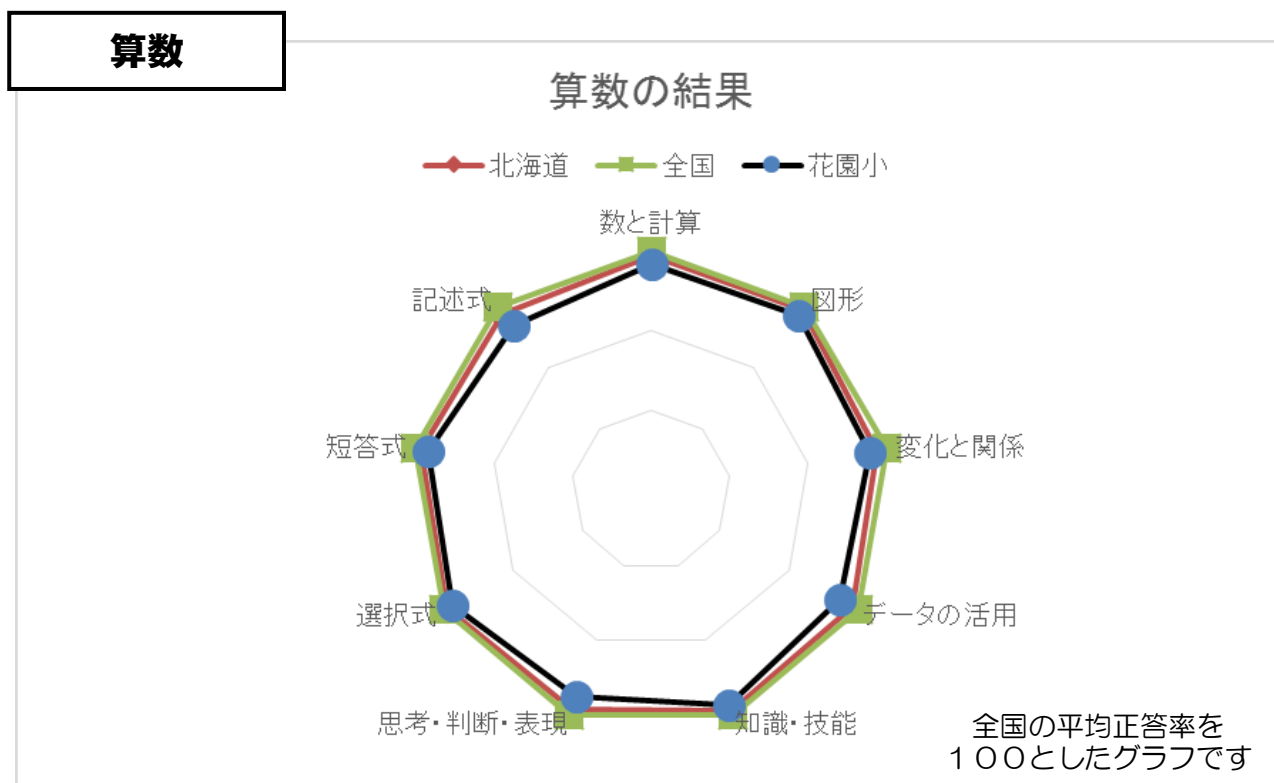
全国・全道と比べて正答率の高かった問題(◎)と低かった問題(△)は次の通りです。

- ◎文章の中で使われる情景描写の「効果」を問う問題(読むこと)。
- ◎他の人の文章の書き方の、どこがよいのかを説明する問題(書くこと)。
- △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題(言葉の特徴や使い方に関する事項)。
- △話し合いの中で発せられた言葉の意図を問う問題(言葉の特徴や使い方に関する事項)。例えば、「きかい」とは、ロボットではなく、それをするとき、という意味です」という言葉の意図を問う問題。

〈考察〉

「読むこと」や「書くこと」の力が高まっているのは、国語の勉強が好きだと考えている児童が多いこと、授業以外にも普段から読書をしている児童が多いこと等の成果だと考えられます。一方、「言葉の特徴や使い方」、「知識・技能」「短答式問題」に課題が見られたのは、基礎・基本がしっかり定着していないことや、話し合ったり、自分の考えを伝えたりする力が十分に育っていないことを表しています。

今後は、ドリル教材を活用するなどして、漢字などの基礎的・基本的な問題に着実に取り組んだり、話し合いの場や発表の場で、考えを伝え合う経験を積んだりすることが大切です。学校では、基礎・基本を定着させるための時間の確保や機会の設定、ペアやグループ、学級全体での話し合い活動の設定、よりよい話し方、話の聞き方を意識していけるような働きかけ等を大切にしていきます。



〈結果〉

全国・全道と比べて正答率の高かった問題（◎）と低かった問題（△）は次の通りです。

- ◎果汁の割合が、量によって変化があるかを問う問題（変化と関係）。
- ◎プログラミングによって画面上に三角形を描くとき、キャラクターを何度、回転させるかを問う問題（図形）。
- △40%果汁の1Lのジュースの中に、果汁は何mL入っているかを問う問題（変化と関係）。
- △物事を決めるのに、希望「人数」で決めるのではなく、「希望人数×年齢に応じたウェイト（重み）」という軽重をつけて決めるときの求め方を説明する問題（データの活用）。
- △比例している2つの量が変化したときの値を求める問題（変化と関係）。

〈考察〉

「数と計算」の領域、「図形」の領域、「知識・技能」面については、まだ不十分な面もありますが一定の成果は見られます。しかし、「データの活用」や「変化と関係」、記述式の解答など思考力・判断力・表現力が求められるものについては課題が見られました。

今後は、毎日の授業や家庭学習等において基礎・基本の問題にしっかり取り組んでいくことに加え、解く過程を説明できるようにしたり、応用・発展的な問題に時間をかけてチャレンジしたりすることが大切です。

◆学校だより◆

Obihiro Hanazono Elementary School

はなぞの



帯広市立花園小学校

ホームページ

QRコード



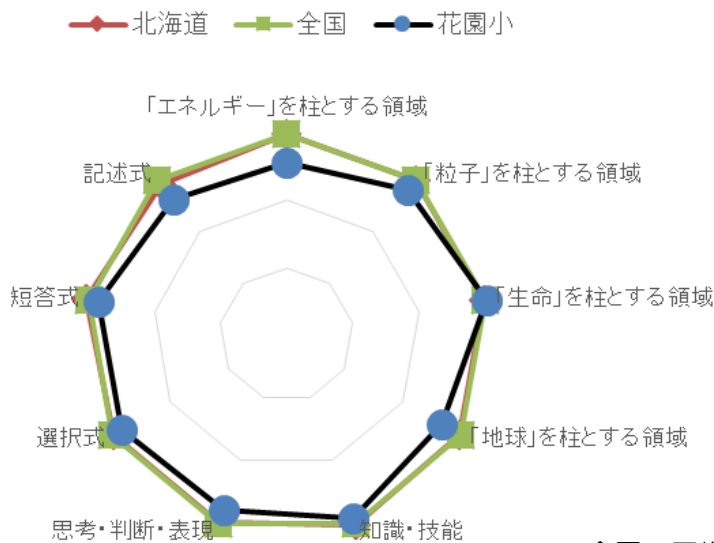
令和4年12月1日

発行者 菅原優博

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて②

理科

理科の結果



全国の平均正答率を100としたグラフです

〈結果〉

全国・全道と比べて正答率の高かった問題（◎）と低かった問題（△）は次の通りです。



- ◎カブトムシは、育ち方や食べ物で表に分類すると、どこに分類されるのかを問う問題（生命）。
- ◎ある実験器具が、メスシリンダーであることを答える問題（知識・技能）。
- △実験結果を示す表から、どう結論づけられるのか、その理由を説明する問題（思考・判断・表現）。
- △数日間の天気と気温を示すグラフから、「冬の晴れた夜は気温が下がる」と結論づけられるのは、グラフのどこを見ればわかるのかを問う問題（思考・判断・表現）。
- △4日間の天気と気温を示すグラフから、どんな結論が得られるのかを問う問題（思考・判断・表現）。

〈考察〉

「生命」を柱とする領域や「知識・技能」面で成果が見られたのは、理科の勉強が好きだと考えている児童が多く、身の回りのことに関心が高いことや、普段の学習の中で、基礎的・基本的な学習を大切に進められていることの表れです。

一方、課題が見られたものに共通していたのは、表やグラフから適切に情報を読み取ることができていない、ということでした。また、後述する質問紙の結果を見ると、自分の考えをうまく伝えるように工夫できていないと感じている児童も多い傾向も見られました。

今後は、観察や実験の結果から、どう結論づけられるのか、どうしてそう結論づけられるのかを自分で説明したり、どんな結果が予想されるかや、その結果になるとすれば結論として何が言えるのか等を、しっかりと考えたり、説明したりする経験を積んでいく必要があります。

<p>◆学校だより◆ Obihiro Hanazono Elementary School</p> <h1>はなぞの</h1>		<p>帯広市立花園小学校 ホームページ QRコード</p>  <p>令和4年12月1日 発行者 菅原優博</p>
---	--	---

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて③

質問紙調査について

〈結果〉

学習について

- 国語や理科の勉強が好きだと考えている児童が多い。
- 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思っている児童が多い。
- △自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫できていないと感じている児童が全国平均と比較して多い。
- △算数や理科において、もっと簡単に解く方法がないかを考えたり、普段の生活で生かすことを考えたりする児童が全国平均と比較して少ない。

学習習慣・生活習慣などについて

- 学校の授業以外に、普段から読書をしている児童が多い。
- 授業には自分で考え自分から取り組んでいると答えた児童、家庭では自分で計画を立てて勉強をしていると答えた児童が多い。
- △1日に1時間以上、学校以外で勉強している児童が全国平均より少ない。
- △1日に3時間以上、動画を視聴する児童が全国平均より多い。

自己肯定感・規範意識などについて

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考える児童が全国平均より多い。
- △自分にはよいところがあると答えた児童が全国平均より少ない。
- △学校に行くのは楽しいと感じている児童は全国平均より少ない。

〈考察〉

読書が好きで普段から本を読んでいる児童や、国語の勉強が好きという児童が全国と比較して多かったです。ご家庭の図書・学習環境が充実していること、学校での図書環境整備や読み聞かせ活動などが充実していることの表れと考えます。

また、理科の勉強がよく分かり、好きだという児童、理科の勉強は大切で、将来、科学技術に関する職業に就きたいと考える児童も全国の児童に比べて多くいました。子供の興味関心を上手に伸ばすことができていることの表れだと考えます。

さらに、授業において課題解決に向けて自分から進んで考えている児童、自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている児童、自分で計画を立てて勉強している児童も、全国に比べて多かったです。将来を見通して主体的に学んでいる姿が表れています。

一方で、自分の考えを工夫して表現したり、話し合いを通して問題解決を図ったり、学んだことを日常に役立てようとしたりする点や、学校が楽しいと思う児童の割合が全国に比べて低い点にも、課題が見られました。学校が、一人で学ぶ場ではなく、教師と子供、子供同士が、もっと対話や協働を通して学びを広げ深め、関わりながら学ぶことよさを実感できるようにしていく必要があると考えます。

そこで・・・

学力向上に向けた取組



学校では・・・

□基礎基本の確実な定着を目指します。

- 全国学力学習状況調査やチャレンジテスト、標準学力調査などの結果分析を学校全体で行うことで課題を明確化し、授業改善に生かします。
- 習熟度別指導を充実させたり、児童の実態に応じた弱点を改善できるよう課題を工夫します。

□授業の改善・充実を目指します。

- その1時間で行う学習が何につながるのかという「価値」を共有したり、すべき課題を明確につかませたり、難しい課題へのチャレンジを励ましたり、自分なりの振り返りを充実させたりするなどして、学習意欲の向上を図ります。
- 基礎基本定着への時間の確保や1人1台端末の活用などを通して、個の力や進度に合った取組を一層進めます。
- なぜそう考えるのか、なぜそう言えるのかなど、考えを伝え合う機会を充実させます。
- 教師と子供、子供同士が、今以上に対話や協働を通して学びを深め広げられるよう、関わりながら学ぶことのよさを実感できるよう工夫します。

ご家庭での取り組みをお願いします。



□よりよい生活習慣・学習習慣の確立を。

- 規則正しい生活を心がけ、9時間～10時間の睡眠をとるようにしましょう。
- 学年×10分以上の家庭学習を習慣づけましょう。その日の学習をその日のうちに消化し、応用問題や発展問題に積極的に取り組みましょう。

□たくさん伝え合いましょう。

- いま学んでいることが何に役に立つかを、ご家庭のそれぞれの立場で伝えてあげてください。学ぶ目的がわかると意欲につながります。
- 「どうやって解いたの?」「どうやってできるようになったの?」など、子供の思考や頑張りをたくさん引き出すことで、「認めて」あげてください。認められた経験が、自分にもできるという自信につながります。
- 「どうしてそう思ったの?」「もう1回、話してくれる?」「考えていることはわかったよ。気持ちはぜんぶ受け止めるからね。」など、子供が思いや考えを話したら、受け止めてもらえた、という経験をたくさん積みさせてください。その経験が、人と関わろうとする意欲を育み、工夫して話そうとする意欲を育みます。



学校と家庭との連携で学力UP!